

平成30年 北海道胆振東部地震 放送継続への対応に関して



発災直後の状況に関して

本社設備の状況

地震による社屋・設備に被害はなかった。午前3時24分頃の商用電源の停電時に非常用発電機が起動しないトラブルが発生したが、その後の復旧作業により、起動した。

本社の商用電源は14時頃に復電し、17時30分に商用電源使用に戻すことが出来た。

送信所設備の状況

地震により全道157局のほぼすべての送信所設備で停電となったが、予備電源(発電機およびバッテリー)により放送は継続されていた。

スタッフの安否状況

社員、並びに全スタッフに対し安否確認メールシステムで発報、昼までに全員の無事を確認。

その他

本社の非常用発電機のトラブルにより本社機能を維持できない最悪の場合に備え、数日後に移転を控えていた新社屋及び親局に一部人員を派遣した。

同時に予備免許を受けていた新社屋のSNG基地局は、臨機の措置を要請し開設が認められた。

停電時の災害報道番組放送継続の取組み

送信設備

送信所に関しては、予備電源がバッテリーのみの局所において、放送の継続、復旧を図るため放送各社・保守業者・関連自治体などと協力しポータブル発電機によるバックアップ作業を出来る限り実施した。

災害報道番組制作

午前3時10分に速報スーパーを配信。午前3時14分から緊急対応放送(マスターカット)を開始し午前4時55分以降は、レギュラー放送枠内で、情報を発信し続け、午後1時55分～午後4時50分にはローカル特番を編成した。

全国の視聴者は、被害の規模を注視。一方、地元は規模もさることながら、ライフラインなど生活情報を欲していて、難しい判断を迫られたが、その両立を目指した。



ポータブル発電機による送信所バックアップ状況

番組制作状況

取材対応

取材用のタクシー不足が深刻、また通信手段が寸断され、取材現場の連絡、安全確認に苦慮した。停電した札幌中心部(ススキノ)、安平町、厚真町、札幌市清田区(液状化被害の住宅地)などにENG取材・中継クルーを出し、ヘリコプターによる空からの中継も継続した。土砂崩れ現場と札幌・本社間との橋渡しとして、厚真町役場前に取材前線基地を設けた。系列11局から最大時80人が応援に入った。



ニュースセンターの様子

9/6 4時20分頃



取材、中継車出動の様子

その他

ネット配信 道内全域で停電となっていたことから、番組をトータルで9時間余り、HTB公式ユーチューブチャンネル等に向けて同時配信したほか、放送とは別プログラムでインターネット向けにスタジオを開きユーチューブで生配信した。また、午後のローカル特番はインターネットテレビ「AbemaNews」にも同時配信した。

特別番組 発生から1か月後には 1時間の特別番組を厚真町から生放送した他、ブラックアウトを検証したドキュメンタリー番組も制作した。

市民サービス 6日から停電で視聴できない市民に向けて、本社玄関にテレビを設置した。同時に携帯電話の充電サービスを行い6日はコンセント30口、7日は受付を設けるなど体制を整えて80口のコンセントを用意した。



テレビ視聴及び携帯電話充電サービス状況

燃料調達・確保に関して

契約燃料供給事業者の対応

複数の燃料供給事業者と災害時の燃料供給について覚書を結んでいて、そのうちの1社で給油した。

送信設備の状況

親局送信所の燃料は10日分程度の備蓄があった。その他の発電機局所は一定程度以上の備蓄が有り近々の緊急対応は行わなかった。ポータブル発電機での対応局所においては発電機及び車両の燃料確保の為にガソリンスタンドの列に並ぶなど苦労した。

番組制作現場の状況

取材車はガソリン不足の状態です。中継車は、使用していない大型中継車や稼働前の新社屋の非常用発電機用の備蓄燃料から軽油を融通した。

その他

系列局から燃料供給の打診があったが、停電が2日間でほぼ収束し、派遣してもらうまでに至らなかった。